



「かんべえくん」のデザインに関する著作権・使用権は、ひめじ官兵衛プロジェクト推進協議会に帰属します。

兵庫県西脇市

官兵衛の里

黒田

播磨黒田氏発祥の地



2014年
NHK
大河ドラマ
放送

軍師官兵衛

兵庫県の中央部にある西脇市黒田庄町黒田は、播磨黒田家9代の里。

黒田家は二百数十年にわたり、黒田城を居城にこの地域を統治していました。8代目当主黒田下野守重隆の子、孝隆は、小寺美濃守職隆の養子となり、小寺官兵衛を名のって、播磨国御着城城主小寺家の重臣となりました。後に豊臣秀吉の参謀役として活躍した稀代の軍師、黒田官兵衛です。

江戸時代に編纂された播磨の史料には、官兵衛が当地で出生したとするものがあり、官兵衛ゆかりの場所が点在しています。戦国の歴史とロマンに思いをはせながら、官兵衛の里をじっくりとお楽しみください。

播磨黒田氏系図

・赤松円光（赤松円心則村の弟・黒田氏の元祖）—敦光 加西郡別所城主

- 初代 黒田重光（又号黒田七郎、志摩守従五位下・在任32年）**黒田氏の始まり**
親応2年（1351）年3月11日に多可郡黒田城に移る。
黒田の庄5,000貫を領し、父祖の為に圓光寺を建てる。
- 二代 重勝（従五位下石見守・在任17年）
- 三代 重康（従五位下丹後守・在任30年）
- 四代 光勝（従五位下下野守・在任23年）
- 五代 重貞（従五位下丹後守・在任17年）
- 六代 重昭（従五位下宮内少輔・在任35年）
- 七代 重範（従五位下掃部頭・在任31年）
- 八代 重隆（従五位下下野守・在任35年）
- 九代 治隆（最後の黒田城主・在任5年）

黒田孝隆（官兵衛）

8代城主黒田重隆の二男。小寺美濃守職隆の猶子となり姫路城を守る。

●楽しい旅の
お問い合わせは

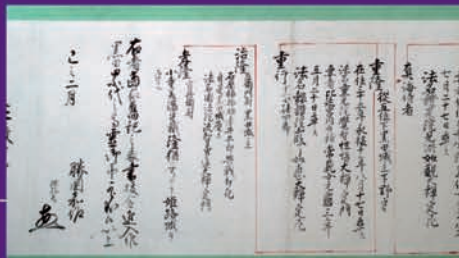


西脇市観光協会

〒677-8511 兵庫県西脇市郷瀬町605番地
（事務局：西脇市役所商工労政課内）
TEL. (0795) 22-3111（内線281）
FAX. (0795) 22-6987
ホームページ（にっぽんまんなか紀行）
<http://www.nishiwaki-kanko.jp>

黒田 官兵衛

戦国知将
希代軍師



莊厳寺【黒田家系図所蔵】

7世紀飛鳥時代に開基と伝えられる古刹で、県重要文化財指定の多宝塔と紅葉の名所として有名です。平成23年に発見された黒田氏の発生から滅亡までの歴代が記されている「莊厳寺本黒田家系図」を所蔵しています。

ゆかりの里巡り



黒田城址

【黒田家九代居城・城主屋敷群】

中世・戦国時代の山城で黒田家代々の居城。全体の城郭は不明ですが、帯曲輪や塹壕ともみえる遺構があります。また、城下には平時の城主居館「多田構居」があり、建物や堀の跡が発掘されています。



姥ヶ懐【官兵衛生誕伝承地】

「多田構居」に付随する邸宅跡と伝わっており、黒田城主の息子として生まれた「黒田官兵衛生誕地」の石碑が建てられています。



松ヶ瀬

【官兵衛と母の別れの地】

黒田城落城の際、幼い官兵衛と母・於松は加古川を渡って逃げましたが、母は増水した川で溺死。母の名にちなみ、ここを「松ヶ瀬」といいます。



白山・妙見山
ハイキングコース
(黒田ルート)

天狗山

黒

田

城

址

多田城(構居)跡
【城主屋敷群】

黒田城の山下にあった城主居館と家臣団の屋敷群。戦時は山上の城に籠るが、平時日常は山下の構居で執務・生活をしました。「構え」ともいいます。

松ヶ瀬

多田城(構居)跡

新中橋

Aコープ

大山病院

田高交差点

本黒田駅

175

加古川

中央橋

至西脇

兵主神社 約2.5キロ
(車で10分)

円光寺跡【黒田家菩提寺】

初代・黒田重光が創建した黒田家菩提寺といわれ、播磨黒田氏滅亡とともに廃寺となったようです。明確な場所はわかりませんが、江戸時代までその所在地の伝承がありました。

円光寺跡(推定)

⊗黒田庄中



兵主神社

【三木合戦・戦勝祈願寺】

県指定文化財の大規模な茅葺き拝殿は天正19(1591)年に改築されており、三木合戦中の羽柴秀吉が臣下となった黒田官兵衛に戦勝祈願のために奉納させた奉納金で改築されたと伝えられています。

黒田城址の他●印は黒田氏関係地

※江戸時代の絵図播州多可郡黒田村の図により比定作成